

令和 2(2020)年度

福島県集落復興支援事業 報告書

# 福島県田村市都路町

宮城大学事業構想学群 [福島県集落復興支援事業都路チーム](#)



## 目次

1. はじめに
2. 田村市都路町（第七行政区）について  
    地図、人口、状況（事前調査）
3. 今年度の活動内容
  - (1) 視察目的
  - (2) 視察スケジュールと内容
4. 調査結果
  - (1) 一回目結果
  - (2) 二回目結果
  - (3) 調査後の変化
5. 来年度の予定
6. おわりに

## 1. はじめに

本報告書は、福島県が実施している「福島県集落復興支援事業」における福島県田村市都路町での調査過程を記したものである。2章で都路町について記し、3章と4章で調査報告、5章で来年度の予定を示す。

## 2. 田村市都路町について

### 地図、人口、状況

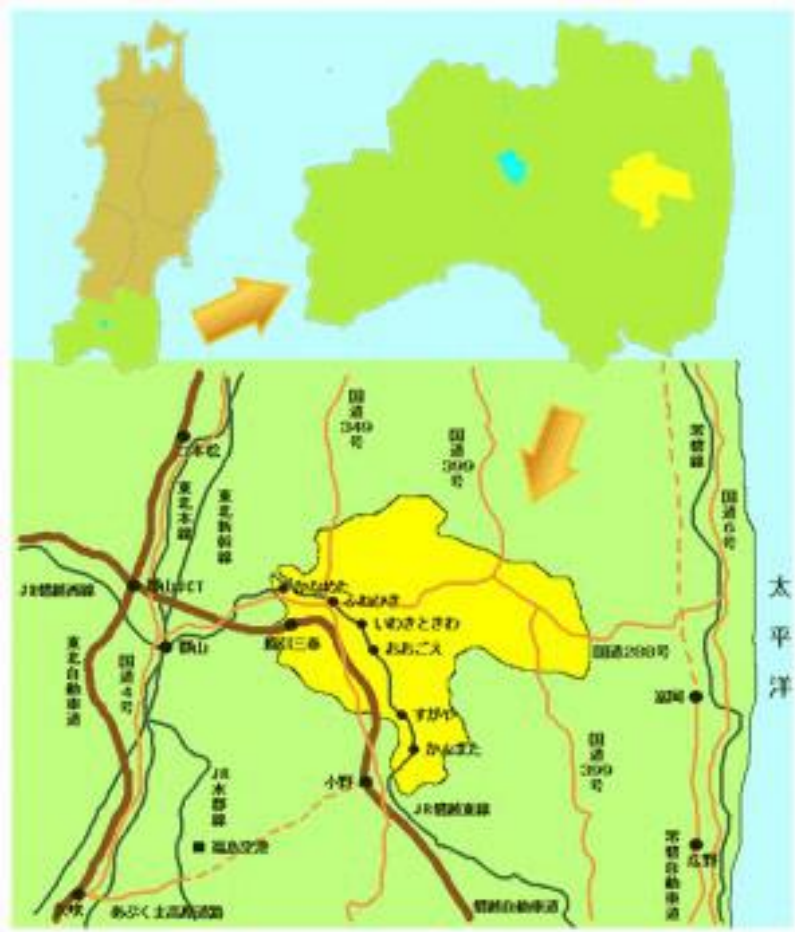
田村市都路町の人口は、2188人（令和2年10月1日現在）。都路という地名の由来は、大まかに二説ある。ひとつは「都に通じる路」、もうひとつは、「落ち武者の隠れ里（都落ち）」。田村市都路町は福島県の中通りにして浜通りとの結節点でもあり、阿武隈系の山々と多くの河川、そして先人の残した歴史に恵まれた地域である。東日本大震災による原発事故で一時避難指示区域になったが、約9割の住民が帰還している。震災から10年経過した現在は、若者の移住や大学生の受け入れが積極的に行われている。しかし、住民の高齢化により、災害対策や地域の見守り体制の構築が課題となっている。

### アクセス

福島空港から70分

郡山駅から60分

船引駅から30分



田村市

(田村市 HP より [田村市の概要 - 福島県田村市ホームページ \(tamura.lg.jp\)](http://tamura.lg.jp))



岩井沢地区

古道地区

### 3. 今年度の活動内容

#### (1) 視察目的

来年度以降に実際に地域内に入り活動をしていく前準備として、地域の概要を掴む視察を行った。地域のキーマンとなる人物へのヒアリングを行い、地域の歴史や求められるもの、地域に対する思いなどを聞き出し、私たちにできる地域に必要なことを考える貴重な材料とする。

#### (2) 視察スケジュールと内容

一回目（教員2名、学生2名）

実施日：12月9日（水）

11:20-14:00 寄り合い処 華 顔合わせ・昼食

14:00-15:45 第7行政区 巡回視察

#### 寄り合い処 華 顔合わせ・昼食

まずは都路の中心拠点ともいえる華でこの事業でお世話になる方々との顔合わせを行った。自己紹介から始まり、都路の歴史や震災以前の産業について、小学生など子供たちの持つ雰囲気についてなどを教えていただいた。お話をしていく中で集まってくださった皆さんがどのような人なのか、地域でどのような役割を担う人なのか少しずつ見えてきた。



#### 第7行政区 巡回視察

華を出たのちに教員の車で第7行政区内を巡回し、エリアの広さや街並みをみた。店などが並ぶエリアと道路沿いに民家が近過ぎない感覚で立ち並ぶエリアなどが見られた。道路は細く曲がりくねった箇所が多くあり、古くからある道路である印象を受けた。



二回目（学生 4 名）

実施日：2 月 9 日（火）

10:30~12:00 寄り合い処 華

12:00~13:00 泰平食堂

13:30~14:30 都路ホップガーデンブルワリー／グリーンパーク都路

15:00~15:30 古代亀石

15:30~16:00 みやこビスイーツゆい

16:00 都路町出発

#### 寄り合い処 華

外に設置してあるピザ窯を囲みピザパーティーが行われるなど都路町民が集い交流する都路町民の憩いの場である。今泉清司さんの店である華で都路の現在の状況、そして今後の課題を話し合った。都路の住民にとっての幸せとは何か、何が必要なのかを重点的に議論した。



### 泰平食堂

華の近隣にある今泉さんおすすめの泰平食堂で昼食をとった。ボリューム満点のから揚げ定食から種類豊富なラーメン、レバニラ定食などお財布に優しい金額で食事を存分に楽しむことができる。私たちが泰平食堂に行ったとき都路町民が庭でイノシシが出たという話をしていた。泰平食堂は都路町民にとっての情報共有の場になっている。



### 都路ホップガーデンブルワリー／グリーンパーク都路

都路ホップガーデンブルワリーでは、SDGsの「つくる責任 つかう責任」を達成できるビール造りが試行されていた。

kokage kitchenの代表であり、醸造士の大島章太さんに、都路に移住する若者についてお聞きした。大島さん自身、数年前に都路に移住し、kokage kitchenのキッチンカーでワッフルの販売を行う傍ら、都路ホップガーデンブルワリーにも勤務している。



## 古代亀石

亀の形をした巨石で、高さ 10.7m、周辺 50.5 m、重量 2,800 t。「鶴は千年、亀は万年」の言葉にあやかり、無病息災を願ってこの亀石にしめ縄を張り崇拝したと言われている。石の上部には天狗が舞い降りた足跡があるとの言い伝えもある。写真ではわかりづらいが、実際に足を運んで実物を目の前で見たときの迫力ある存在感には驚かされる。





## 4. 調査結果

### (1) 一回目結果

1回目の現地視察で得られた収穫は

- ・都路に携わる方々の思い
- ・都路では大学生との連携プロジェクトが過去にも行われている
- ・都路の方々は外から入ってくる人への抵抗が小さいことが予想される

### (2) 二回目結果

二回目の現地視察で得られた収穫は

- ・都路の歴史や変遷
- ・今泉さんへのヒアリング
- ・大島さんへのヒアリング
- ・都路周辺の観光スポット
- ・東日本大震災の爪痕

## 5. 来年度の予定

- ・地区防災計画と防災マップの作成

第七行政区の地形調査を行い、災害時の危険箇所を特定する。

同時に各世帯を訪問し、住民に聞き取り調査を行い、災害時の世帯別の避難方法を構築する。

都路町の第七行政区の地区防災計画が他の行政区の防災計画のモデルとなることが目標。

- ・菊芋を使った食の開発

現在都路町では、菊芋の栽培に力を注いでおり、菊芋商品の共同開発を提案する。

- ・小中学校の行事の手伝い

子供たちと仲良くなることで、地域住民への宮城大学生の認知度を高める。

## 6. おわりに

今回、福島県集落復興支援事業に参加するにあたって我々は復興支援とは何かを考えた。2011年3月11日に起きた東日本大震災は記憶に新しい。震源に近い福島県は大きく揺れ原発事故という目に見えない恐怖にさらされた。原発事故により当時福島に住んでいた多くの住民が故郷を

離れ、避難を余技なくされた。

三年後、避難区域解除の知らせが元の住民の耳に入った。しかし放射能という見えない恐怖との隣合わせの生活を覚悟するのは難しい判断であった。関西学院大学による東京電力福島第一原子力発電所事故の避難者を対象にしたアンケートには、将来的に「福島に戻るつもりはない」と答えた人は全体の6割にのぼったそうだ。

今回私たちの担当する福島県田村市都路町もその一つである。しかし、都路町に戻ってきた住民の数は全体の約9割である。不安と隣合わせの生活になるにも関わらず都路に戻る決断をした住民の地元愛の深さに心を打たれる。「都路をこのまま終わらせたくない」。都路に住む本間誠さんは真剣な目をして我々にそう語った。震災前と同じような生活を営むのは難しいだろう。しかし、住民にこれほどまでに愛されている都路という町を知りたい、そして守りたいと思う。復興支援とは、復幸支援である。住民一人一人にとっての幸せを取り戻せるように。元通りじゃなくてもいい、今の我々にできる最大限の形で。